

書の物候はゞ、印行いたし度候間くれ候へと多年望候得共、さやうの物無之候故遣不申候所、去年しきりに望申に付、いかさま漢文にて調候ては、俗人難通候。かなにて調候てしろうと面白くも存候て、見候様に仕立候はゞけつく人の爲にもなり、又ははやり候はゞ書肆のためにも成可申と存候て、不圖筆を起し候へばやめがたく候て、段々書添、出來候以後見申候へば、紙數二百五十枚も有之候。然所に先日西丸御近習衆被參候て、その咄いたし候へば、上へ獻上候はゞ御慰にも可罷成候間、出來候はゞ左様にもいたし可然候由。其後御側衆へも被申候へば、一段よかるべき由、大久保伊勢守殿も被申候間、彌其心得にいたし候へと被申聞候。拙者もふと咄し候て辭退も難成候。尤指て上の御用に立可申品にては無之候へども、少々政治の事にもかゝり、風俗にもかゝり申儀など有之候へば、及上覽候てもくるしかるまじき物と存候。只今は書肆の方は指置、獻上の心得にて、指急ぎ下書をも濟し候得共、自筆にては見ぐるしきは其通に候得共、中々はか參不申、以の外延引に罷成候てはいかに候間、筆耕に調させ可申かと奉存候得

共、筆耕はたゞはかやりに調書駐、殊の外疎末なる物に候故、門弟其内頼可申と存候て罷在候。然所に貴様にも御調可被下候旨被仰下、別て忝奉存候。獻上に成候へば、御本丸・西丸兩上様へ一部づゝ獻上不仕候ては成申間敷候。一通りは貴様に御調被成被下候へば、幸の儀にも奉存候得共、貴公にも御勤無御隙事に御座候間、難申上奉存候。當十月時分迄の内に、一通り出來候へばよく御座候。其内御調も可被下候や。私自筆に調候へば一部に三月程もかゝり可申と存候。手叶不申故そろりと掘候様に調候故、一日に三枚位か、四五枚程ならでは不成候。其つもり候へば二通にては、來年ならでは獻上難成候。左候ては時節を失候ていなものに候故、同じくは九・十月迄の内に獻し申度存候。一通り貴公に御調被下候へば、今一通はこゝもとにて外の門弟は頼可申候。乍去御勤繁中御苦勞千萬成事に奉存候。一冊五十枚ほど有之、合て五冊に仕立申候。かな書の物は人々手淺様に存候て、念入よみ不申物に候得共、此書は義理の精きもの、返々老拙學問は、是にてすきと知れ申物にて候。しかも世の諺、淺はか成物語共をものせ置候間、誰見

候ても面白き物にて候。下書吟味すみ候はゞ、近日進候て御目かけ可申候。御よみ御らん候はゞ、様子相知可申候。尙跡より可申上候。以上。

八月四日

室 新助

小寺市郎右衛門様

一、同上の儀小寺遼路より大地昌言宛狀

大地兄へ小寺氏宛狀

先生より兼て被仰進候假名書のもの儀、一通り相調可差

上候やの旨、先頃申上候處、御返書被下候に付懸御目候。

兩上様へ被上候分、私相調申儀從先生被仰下候儀に御座候得共、私儀は御斷可申上と奉存候。仔細は上様入御覽候も

の相調申儀に候へば、不奉達御内聽候ては、決て相調申儀仕間敷事と奉存候。左候へば如何敷儀と奉存候。何とぞ私相調不申候て不叶儀にも候はゞ、奉達御聽候様にも可有御座候へども、左様の儀とも不奉存候。兎角何とやらん不安様に奉存候に付、此段御斷可申上と存候。何と思案仕候ても、御斷申上候儀當然の様に奉存候に付、其通に相極可申と奉存候。御料簡被成追て高意被仰聞可被下候。藤太夫殿へも、右御狀此紙面共に御達可被下候。此元にてか様

の儀、御内談可申方無之氣毒に奉存候。右かな書のもの早速拜見仕度奉存候。御再校被遊候へば、誤落多く御吟味未相濟候故、不被下候段、一兩日以前も被仰下候。以上。

八月十二日

小寺市郎右衛門

一、同上の儀青地禮幹より小寺遼路宛狀

先生内々被仰下候假名書のもの儀、一通り御調可被差進

やの旨、先頃被仰上候處、御返書被遣候間、私共も致承知

候爲に被遣候旨、則拜見仕候。右假名物兩上様へ被上候間、貴兄御調被成候様に被頼被遣候段、先生被仰遣候儀に候得

共、御斷可被仰上と思召候。其仔細は上様入御覽候もの、御調被成儀に候ては、不被達御内聽候ては、決て御調被成間敷事と思召候。何とぞ貴兄御調不被成候はゞ不叶儀にも候はゞ、被達御聽候様にも可有之候得共、左様の儀とも不被思召候。何と御思案被成候ても、御斷被仰上候儀當然と思召候に付、其通に御極被成候料簡仕、追て愚意可申進旨、大地兄へ迄御紙面に私へも預御傳書、忝承知仕候。最初は一通りの儀と召思、清書も被成可被差進旨被仰上候得共、